

前川直哉さんインタビュー

1面から

人権にあたりはずれがあるのはおかしい

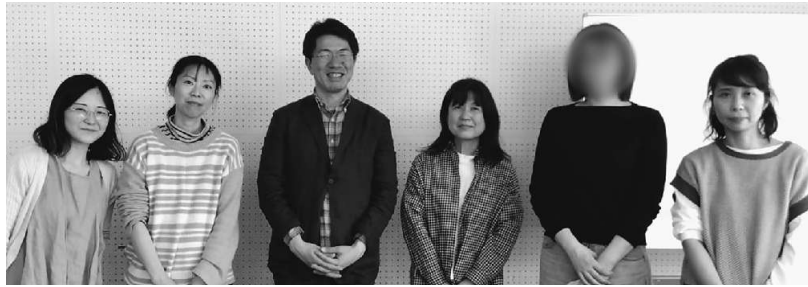
「バックラッシュ」は、日本も他人事ではありませぬ。

前川 決して他人事ではありません。SNSにはありません。SNSにはトランスジェンダーへの攻撃があふれています。政治家まで暴言をばく状況です。

自分の性別についての認識であるとか(性自認)、自分がどの性別の人を好きになるか(性的指向)とか、そうした性のある方によって、ある人には人権が与えられて、ある人の人権が制限されるというのは、明らかにおかしい。人権に当



▷前川先生を講師に招いて開かれた「パートナーシップ制度」の学習会(新婦人福島支部、2023年5月)▽福島支部次世代サークルたんぼぼキッズのメンバーと(左から3人目が前川先生)。支部は、学習会の後、6月の市議会にパートナーシップ制度を求める陳情を提出し、採択された



たりはずれがあるのはおかしいのです。

性別二分法については、女性、男性、そんなにきっちり分けられないというのが科学的な知見です。女性、男性と二つの分け方を作ってきたのが多くの人類のこれまでの歩みですが、そこからはみだしてしまっていることに気づいて、だんだんすべての人の人権を尊重しようとなってきたのに、トランプ氏の発言と政策は時代に逆行するものです。誰かの人権をないがしろにすることは、いつ自分の人権が脅かされるか分からない、大変危険な考え方だと思います。

前川 これまで教育とジェンダー、教育とフェミニズムという問いのたて方は多くありました。でも、学校そのものが男性的じゃないの?という問いかけは比較的めずらしかったようで、雑誌『教育』2024年11月号(教育科学研究会編集)に特集したところ、読者、教育関係者から反響が大きく、励まされています。男性性という言葉は、男らしさとはほぼ同じです。要するに、「男性だつたらこうしてほしい、

学校の男性性を問うとは?

先生たちは、学校の男性性を問うていますが、これはどのような活動ですか?

前川 これまで教育とジェンダー、教育とフェミニズムという問いのたて方は多くありました。でも、学校そのものが男性的じゃないの?という問いかけは比較的めずらしかったようで、雑誌『教育』2024年11月号(教育科学研究会編集)に特集したところ、読者、教育関係者から反響が大きく、励まされています。男性性という言葉は、男らしさとはほぼ同じです。要するに、「男性だつたらこうしてほしい、

自分を解放し、社会をよりよくする

「そもそもなぜ、先生はジェンダーの研究を?」

前川 一つは、私が性的マイノリティーだからというのがあるのですが、実はそれがメインではありません。最初の会社を辞めてフリーターのような時期があったのですが、その時にジェンダー関係の本を読み始め、すごく納得できることが多かったのです。

自分がマイノリティーとしていろいろ損をしていることはわかっていた

「こうあるべき」といった規範ですね。男性性にもいろいろあるのですが、私は、特集の中では「暴力性」に着目しました。たとえば、何か問題を解決しようとする時に、力に頼る。身体的な暴力であったり、強い言葉や精神的に圧迫することであったり、そうしたことに頼るのも男性性の一つと考えられます。そういう力に頼りすぎていなかっただか、長く教育に携わってきた私自身の反省も込めて、問うていきたいと思っています。

前川 ジェンダーを学ぶことの意味は、まずは自分が生きやすくなることです。何かモヤモヤしていたものの正体がだんだん見えなくなるので、少し気持ちが落ち着き、対応がわかってきます。さらに、ジェンダー規範、男らしさ、女らしさのどちらからか少しづつ楽になりま

「ジェンダー、フェミニズムを学ぶ意義とは?」

課題とも重なりますか? 前川 もちろんです。日本に限らず、男性中心であることが世界中どこでもまだ課題ですが、ジェンダー平等の課題がとりわけ遅れている日本では、なおさらです。

前川 やはり、現場の教員が「学校ってなんかおかしいよね」と気づき、社会運動にしていこうことが大切だと思います。すでに教育現場からも、課題を意識してのさまざまな実践が始まっています。

「ジェンダーを学ぶこと」は自分のためであると同時に、社会全体をより良い方向にもっていくものでもあります。

長いスパンで考えると、いろいろな手だての必要性がでてくると思います。女性教員、女性の管理職を増やすことはもちろん、暴力的な指導を行わないためには、1クラスあたりの児童・生徒数を減らしたり、忙しすぎる教員の仕事を見直すことも必要でしょう。

前川 ジェンダーを学ぶ意義は、まずは自分が生きやすくなることです。何かモヤモヤしていたものの正体がだんだん見えなくなるので、少し気持ちが落ち着き、対応がわかってきます。さらに、ジェンダー規範、男らしさ、女らしさのどちらからか少しづつ楽になりま

「ジェンダーを学ぶこと」は自分のためであると同時に、社会全体をより良い方向にもっていくものでもあります。

女性ニュース

2025. 2.22

被爆80年、日本はリードを

3月の核兵器禁止条約第3回締約国会議にむけ、市民団体「核兵器をなくす日本キャンペーン」が国際フォーラム(8,9日)を開き、10日には国会議員討論会を開いた。被爆者や海外の専門家が参加するなか、自民党は核兵器禁止条約を「核保有国と非保有国の溝を大きくする」と非難、自民党以外の各党は日本政府の締約国会議参加を求めた。

袴田弁護団が国を提訴

昨年無罪が確定した袴田巖さんの弁護団は12日、国に対し、畝本直美検事総長が控訴断念を表明した際の談話が名誉棄損に当たるとして提訴する方針を固めた。畝本氏の談話では「判決は多くの問題を含む到底承

服できないものであり、上級審の判断を仰ぐべき内容」などとし、無罪が確定しても犯人視扱いしている。

紙おむつ買えない

3歳以下の子どもがいる困窮世帯対象の国際NGO調査で、「経済的な理由で紙おむつを買えなかったことがある」49.2%。「粉ミルクを買えなかったことがある」39.6%のうち約半数が「粉ミルクを薄めて飲ませた」と回答。

子どもの性被害 時効撤廃へ

英政府は5日、性的虐待を受けた子どもの民事訴訟の時効を2地域で撤廃する方針。今は18歳になって3年以内の提訴だが、被害を話せるまでが長く、かなりが却下。当事者らが12年以上運動した。

国会 スポット

■日米首脳会談で質疑 国際法無視の暴挙に懸念が広がるトランプ米大統領(7日)との初の首脳会談について12,13日、石破首相が衆参本会議で報告。首脳会談は、「ガザ所有」発言、パリ協定・世界保健機構・国連人権理事会からの離脱などの緊急課題や国際秩序を壊すトランプ氏に一言の批判もなく、ご機嫌をうかがい、2027年度以降も大軍拡を「確約」する重大な内容。国会で、首相は日米協力の「羅針盤」と強調、自民党「満点」、公明党「大きな成果」と礼賛。立憲民主党は「安保分野での成果は十分に得られた」とし、国民民主党は高く「評価」、日本維新の会は「核を含む拡大抑止」へ軍事同盟強化をけしかけ、共産党はトランプ氏の暴走批判を避けた卑屈な姿勢や大軍拡推進を厳しく追及した。■予算審議続く 政府予算案(本紙前号クイズ参照)の審議が続き、地

方公聴会を広島、群馬で開催。立憲は14日、予算修正を提案し、与党と協議へ。高額療養費見直し、学校給食無償化、103万円、財源をめぐる駆け引きが。道路陥没事故で、下水道事業の広域化と独立採算、自治体任せの国の責任が明るみに。軍事費突出・大型開発予算の抜本的見直しが必要。

■連日、国会行動の波 116大学の学生の賛同による学費値上げ撤回を求める集会、「介護保険改善を」と中央社保協が24万の署名提出(うち新婦人4万)、「武器援助拡大に歯止めを」の院内集会、「通称では不利益残る、選べる制度を」と選択的夫婦別姓シンポジウム(日弁連)など。同性婚を求める集会で賛否を問われ、公明、立憲、維新、共産、れいわは〇、自民と国民は〇△。新婦人は18日、「大軍拡より暮らしを!選択的夫婦別姓すぐに!」と署名提出と要請行動(次週報道)。